

グリーンコンシューマ（地球にやさしい市民）

- なぜヨーロッパは環境先進国と呼ばれるようになったのか
ヨーロッパは産業革命が早かったため公害が早かった。また国が隣接しているため公害は国際問題であり、人々が環境に大きな関心を持つようになった。
- グリーンコンシューマとは
「環境にやさしい消費者」であり、最近では大きな影響力を持つようになった。
- 環境に悪いものは買わない
⇒企業が環境を重視するようになった
- 意思表示する；環境保護を要求、無視する政治家をリコール
⇒政治が環境を重視するようになった
- 参加し行動する；環境保全活動など
⇒社会全体が環境を重視するようになった
- グリーンコンシューマが増えれば
グリーンコンシューマはヨーロッパでは市民の過半数、日本では1割。
この差が政治、経済、法律、企業、人々の意識など様々な面で現れている。
- 整理された正しい環境情報が増える
日本にも情報はあつた。それに気づけなかつた、気づこうとしなかつたのではないだろうか。今はインターネットなどで様々な情報を入手できる。仲間同士で情報を共有することで、情報が整理され、正しい情報が増える。正しい情報が増えつた、情報が整理されやすくなる。
- 企業が変わる
多くの人々が「環境に悪いものは買わない」ならば、企業が変わり、商品が変わり、社会が変わる。
- 政治が変わる
多くの人々が「お金よりもいのち、経済よりも環境」と、選挙の際の投票で意思表示をすること。政治に問題があれば投書や公聴会などで意見を述べ、環境に配慮しない政治家はリコール。政治家が変わり法律が変わる。
- 社会が変わる
情報が増え、商品が変わり、法律が変われば、人々の意識が変わり行動が変わり、社会が変わり未来が変わる。

『地球村』はグリーンコンシューマのための情報ネットワークです。
毎月環境情報をお送りします。